

東山公園環境整備事業

取組に至る背景・事業の目的

- 東山公園は大正天皇の即位を記念して大正4年に整備された自然公園で、過去には監視哨の場所として使用されるなど地域と歴史的な繋がり深い公園であった。しかしながら、戦後、時代と共に利用されなくなり、貴重な地域資源が埋もれてしまっていた。
- 近年、東山公園の再活用のお話が出され、地元保存会が中心となって環境整備に努め、整備計画を定めた。整備計画に基づき、東山公園の魅力をもっと高め、不特定多数の利用者が安全に利用できる環境の整備を目指す。

事業内容

- 利用者の安全を確保しつつ、公園下部から山頂付近まで低木花木類による一体的な景観をつくるため、主に公園下部の修景整備を実施した。主として下層処理後の跡地に地元小学生児童や地元住民と協働でミツバツツジ等の低木の花木を植栽した。
- 公園山頂付近の危険な枯損木等を伐採した。
- 訪れた方が楽しみやすく、確かな情報が得られる環境をつくるため、代表的な樹木等について、樹名板を設置した。
- 公園を活用する際の注意事項及び周辺観光情報等を表示する看板を公園内に設置した。



【地元住民との植栽作業】

事業効果

- 公園下部の修景整備により、公園の景観が向上した。当事業の取組を受けて、周辺でも環境整備が行なわれ、相乗効果を生むことができた。
- 注意喚起看板や樹名板を設置することにより、公園としての価値が向上した。
- 植栽作業参加者
 地元住民 17名、地元小学校児童 45名
- 危険枯損木伐等採作業参加者
 地元住民 10名
- 地元住民による公園利用
 読書保育園園児・・・延 150名／年（散歩コースとして活用）
 小学校低学年・・・延 40名／年（学校授業として活用）

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 公園の大きな整備事業は終了したため、今後は植栽した花木を維持していく。東山公園を中心として、周辺に存在する他の観光資源を結び付けて、地域としての観光コンテンツの向上を図りたい。

【選定のポイント】
 自然を満喫することができる山林公園としての機能を向上させるための取組を、計画的に実施したことにより、今後の地元住民や観光客の利用について期待できる。また、多くの地元住民を巻き込んで環境整備や植栽作業を実施し、本事業の取組を受け、周囲でも環境整備が行われるなど、地元住民の意識も向上させた。

三留野地域振興協議会 （事務局：南木曾町役場） 0264-57-2001（代表）	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">事業タイプ</td> <td>ソフト・ハード事業</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>3,379,075円</td> </tr> <tr> <td>支援金額</td> <td>2,670,000円</td> </tr> </table>	事業タイプ	ソフト・ハード事業	事業費	3,379,075円	支援金額	2,670,000円
事業タイプ	ソフト・ハード事業						
事業費	3,379,075円						
支援金額	2,670,000円						